

## 第6回学ぶ喜び・ESD連続公開講座 概要報告

◇開催日時 平成28年10月24日(月)19時～20時30分

◇会場 次世代教員養成センター

◇参加者数 102名

◇内容

「上手くない」先生による「上手く」いく学級経営のコツ」

講師：東大阪市立長瀬南小学校 教諭 阿部 雅之 氏

### 1. はじめに

学級経営に関して2つのタイプがある。自分は、以前は、できもしないくせに子どもと距離をとってカリスマタイプぶっていた。これは一番はた迷惑な教師だ。ちゃんと勉強しろと言いたい。そんな反省から「できること」をやろうと思った



### 2. 学級経営で「やればできること」

#### ①「家庭訪問」の学級経営

ここにお集まりの現職の先生方に質問したい。4月から何回家庭訪問に行ったか。私は何度でも家庭訪問に行く。最初は保護者からびっくりされたり、迷惑がられたりもするが、そのうち慣れてもらえる。

では、家庭訪問に行く意味とは何だろうか。

#### ・保護者との信頼関係の樹立

よく、先生が家に来るといって、何か悪い知らせと思われ、身構えられる。私は、悪いことを伝えなければならなくなる前に、いいことをとにかく伝えに行くようにしている。そうすれば、悪いことも言いやすくなる。

#### ・子どもとの信頼関係の樹立

「ほめ」は必ずしも内容ではない。「誰に褒められるか」がまずは重要。その子は誰に信頼をおいており、誰に褒められるとうれしいのかを聞き取るようにしている。何かいいことをしたり、頑張ったりしたら、この先生が「褒められたい誰か」に必ず伝えてくれるという、教師への信頼につながる。

#### ・アセスメント(見取り)：子どもの家庭での様子を見とる

だいたい次のようなことを聞く。それはその後の指導に役立つことが多い。

どんな習い事

家庭ではだれと遊んでいるのか(兄弟姉妹)。学級外の友達関係

家ではどんな話をしているのか

内弁慶かどうか(学校で見せている顔との差)など

#### ・何を話せばいいのか?

よく若手の先生が何を話せばいいのかわからないと相談にくる。内容は気にしなくていい。いつでも重要な話を持っている人はいないだろう。とにかく話しかけることが大切。「最近、気になることはないですか?」そうしたら、保護者の方から話してくれる。それに耳を傾けよう。



#### ・家庭訪問のタイミングについて

家庭訪問にはいつ行けばいいのだろうか。まず私は、担任に決まった4月始業式～数日間に行って、「担任になった〇〇です」と伝える。最初の学級参観日より前なので、びっくりされることが多い。インパクトがあるとも言える。そして、「よく来ますよ」と伝える。可能であれば、前の担任から聞いた情報の中で、よかったことを伝えると、喜んでもらえるし、信頼してもらえる。

家庭訪問期間に行くのは当たり前だが、時間が短いので

あまり話ができない。

学級始まりから2か月 「2か月たちましたけど、どうですか？」と行ってみる。

夏休み明け 「夏休みはどうでしたか？」と行ってみる。

家庭訪問をしっかりとしておく、個人懇談会は成績の話だけで済む。学校での生活の話などを個人懇談の中でするのは無理だ。

運動会前にその子の見どころを伝える（全員に電話して伝える）どこに席をとると見やすいか

（運動会もその一つだが、行事を企画する場合に、子どもの褒めどころを増やすことを配慮する。子どもに何か役割を与えて、見どころをつたえる（コント・ネタ）

## ②「学級通信」の学級経営

4月から何号学級通信を書きましたか？私は、114号書きました（10月24日現在）。

### ・学級通信の内容について（どんなことを書くか）

毎日の学校生活のちょっとしたこと、子どもが何かいいことをしていないかなという目で取材する。どんな勉強をしたか。誰がどんな発表したか。行事に向けてどんなことしたか。子どもの声や姿をリアルに伝えることが目的なので、個人名を書く（保護者が読んでくれる）。その場の雰囲気が伝わる写真も欲しいので、スマホを利用することを伝えておく。

### ・自分の哲学を書く

何を大切にしたいか、クラスでは何がいけなかったか、どんな行動に感動したかなど、自分の学級経営を保護者に知ってもらおう。

## ③特別支援教育の学級経営

「スマホの地図は北を固定しない」「飛ぶの書き順を逆から書ける」この2つが該当するのであれば、視覚優位の可能性がある。言っても伝わらないが、指示内容を見せることで伝わるという子もいる。これまでに漢字がなかなか覚えられない子がいて、何度も何度もノートに漢字を書かせて、体で覚えさせようとしたがうまくいかなかったが、漢字を書いたカードで見ることで成績が向上した場合があった。何度も書かせてわかったと思う。

### ・科学的な子ども理解を取り入れる

これまで一部の「できる教師」ができていたアセスメントが、今やいろいろな本が出ていてだれでもできる環境になっている。「カン」や「思い込み」ではなく、科学的な手法で子ども理解を進め、一人ひとりに対応した指導が必要だ。これこそ、本物の「みんな違ってみんないい」だ。



#### ④学校経営の学級経営

次期学習指導要領の「目玉」は、アクティブ・ラーニング、チーム学校、3観点評価だ。学校の教員全員が「なかま」として機能することが大切だ。

- ・職員会議では徹底的に議論する。仲のいい先生とあえて意見をぶつける。そうすることで、必ずいい案に修正されていく。そして決まったら、文句を言わない。実行する。
- ・しんどそうな先生には「GO」をだす。自分とやり方が違ってても、その方の「信念」を応援する。「こうしたほうがいい」「こうしてみても」と言った傀儡政権は維持できないし、無責任だ。その方の自尊心こそ大切にす。自信を取り戻すことでその先生も復活する。
- ・文化を作る  
担任の先生の誕生日をその学級の子どもたちに伝えておき、サプライズお祝いする文化をつくる  
拍手の文化をつくる。「はい、拍手！」と先生が強制した拍手は続かない。子どもの方から出た拍手を「ほめて」、拍手の文化を教室内に広げていく。
- ・ダメなものはダメの文化  
「おかしい」ものは「おかしい」と発言する練習は、中学年までにしておきたい。いじめを許さない文化ができるかどうかここにかかってくる。いじめは「いけない」ということは、子どもはみんなわかっている。でも「いけない」ということで、自分がターゲットになる、みんなから「浮いて」しまうことをおそれて口に出せない。そうなる前に、「ダメなものはダメ」とはっきり言い合える文化をつくりたい。

#### ⑤授業づくりの学級経営

教師にとって一番大事な仕事は授業だ。授業で教師の作りたい学級を育てていく。

- ・子どもをつなげたいなら子どもがつながる授業をつくっていく。  
指示のバリエーションを増やし、子どもがつながる場面をつくる  
「隣の人と話さない」、「一度みんな立ちなさい」、「ジャンケンして順番を決めなさい」  
子どもの人間関係が見える場合もある  
「おとなりの話していたこと教えて」（大村はま先生「国語教室の実際」）の方法は必ず隣の人の意見を聞く必要が生じるのでいい。
- ・教科の真髄を追及する授業をつくるために、専門教科をもつ。小学校の教員は全教科教えるのだが、その中で一つ選んで、自分で研究を続ける。研究仲間を持つ。私は社会科を専門教科にして、毎月1回集まって学び合う仲間がある。最近の社会科の授業でやってみたことを紹介する。  
社会見学の依頼を子どもたちにさせる（もちろん事前に了解をとっておく）。そのことで、社会見学への関心を高め、主体性が出てくる。

沖縄にエイサーの踊り方について子ども手紙を書かせる。子どもが書いた手紙には、返事をもらえる場合が多い。返事がもらえることで、沖縄が子どもにとって身近になる。

#### ⑥その他の学級経営

- ・「何で決まりなんか守らなあかんねん！」と言われたとき、どう答えますか？

弱い人を守るために決まりはある

決まりを守る練習をすることに意味がある

- ・「自分がされていやなことはしちゃだめだよ」ということでいいのか？

自分はされて平気だが、その人にとっては嫌なこともある。自分中心に考えているのはおかしい。

→「相手が嫌がることはしない（ただし相手のためになることはのぞく）」

- ・叱るときは叱る

叱ってあげないこと、挫折を体験させないことはかえって無責任だ。ただし、叱りっぱなしではなく、

いつも味方であることは伝える

- ・悪口・陰口を防ぐには

直接言う練習をさせてあげる（言わないのは自分が傷つきたくないからなので）。その背景には家庭訪問によって、保護者との信頼関係を築いておくことがある。直接悪口を言わせることの重要性を双方の保護者に伝える。

- ・「けんかをするな」でいいのか？

気持ちをぶつけあうことは大切だ。こういうことを言うと、こういう言い方をすると、相手の逆鱗に触れることがわかる。喧嘩はここでしてくださいと言い、互いの言い分を聞く練習をさせる。

- ・席替えの意味は

隣の子を知るため（知っているようで本当は知らない）

- ・「人の間違いを笑うな」でいいのか？

ちょっと笑った方が気楽になれる。ユーモアのセンスが大切。

- ・子どもの「お前は俺より偉いんか」にどう反応する？

「あんたより偉い。だから皆の前で指導させてもらっているんだ。」と、社会の仕組みを教える

- ・「教師が食べ物の好き嫌いを見せてはいけない」って本当か？

残すのはよくないが、好き嫌いを見せてもいい。それでも食べている姿を見せることに意味がある

- ・「みんな頑張って仕上げたんだから、一人だけ取り上げるのはよくない」のか？

一番は価値がある、けれども二番以下も価値があることを伝える。

- ・女子が給食のおかわりするクラスは安定する。

